18歳意識調査
「第82回 –エネルギー–」
報告書

日本財団　2026年7月31日

目次

内容	ページ
調査概要	3
エネルギー価格の値上がりの実感	5
エネルギー価格の値上がりによる影響	6
エネルギー価格高騰の原因	7
エネルギーの価格や供給に関する不安	8
日本のエネルギーのあり方で重視すること	9
日本が力を入れるべき取り組み	10
火力発電に関する考え	12
原子力発電に関する考え	14
新しい技術の認知	16
新しい技術への期待	17
若者の関心を高めるための取り組み	18

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

第82回18歳意識調査「エネルギー」
調査概要

調査対象　全国の17歳～19歳男女

回答数　1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男	169	169	175	513
女	160	161	166	487
計	329	330	341	1,000

実施期間　2026年6月19日（金）～ 6月21日（日）

調査手法　インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

提示文章

今年に入り、電気料金やガス料金、ガソリン価格の値上がりや、原油の輸入減に対応するため国家備蓄石油が放出されるなど、エネルギーに関するニュースが多くありました。
本調査は、エネルギーに関する国民の意識を把握するために実施しています。

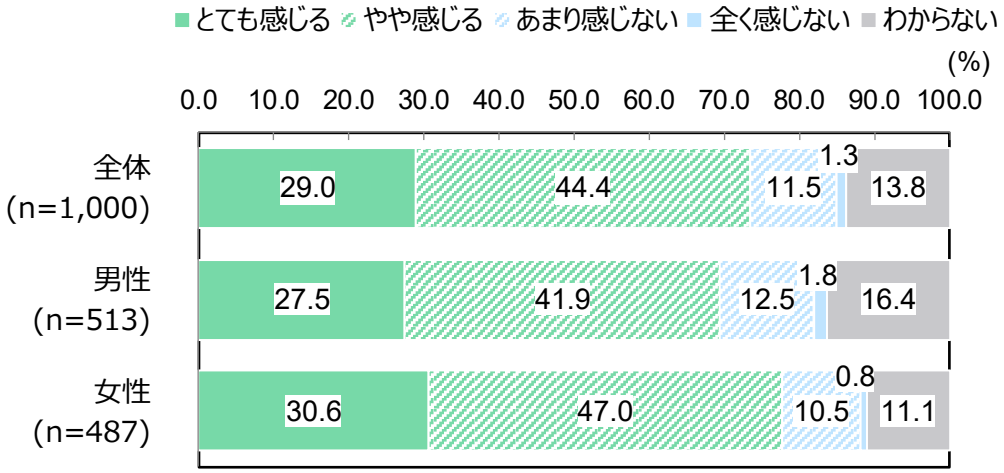
日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

エネルギー価格の値上がりの実感

エネルギー価格の値上がりが生活に影響していると感じる（※）と答えた人は、全体の70%強。男女別では、男性が70%弱、女性が80%弱と、女性の方が生活への影響を感じている。

※ 「とても感じる」、「やや感じる」の合計

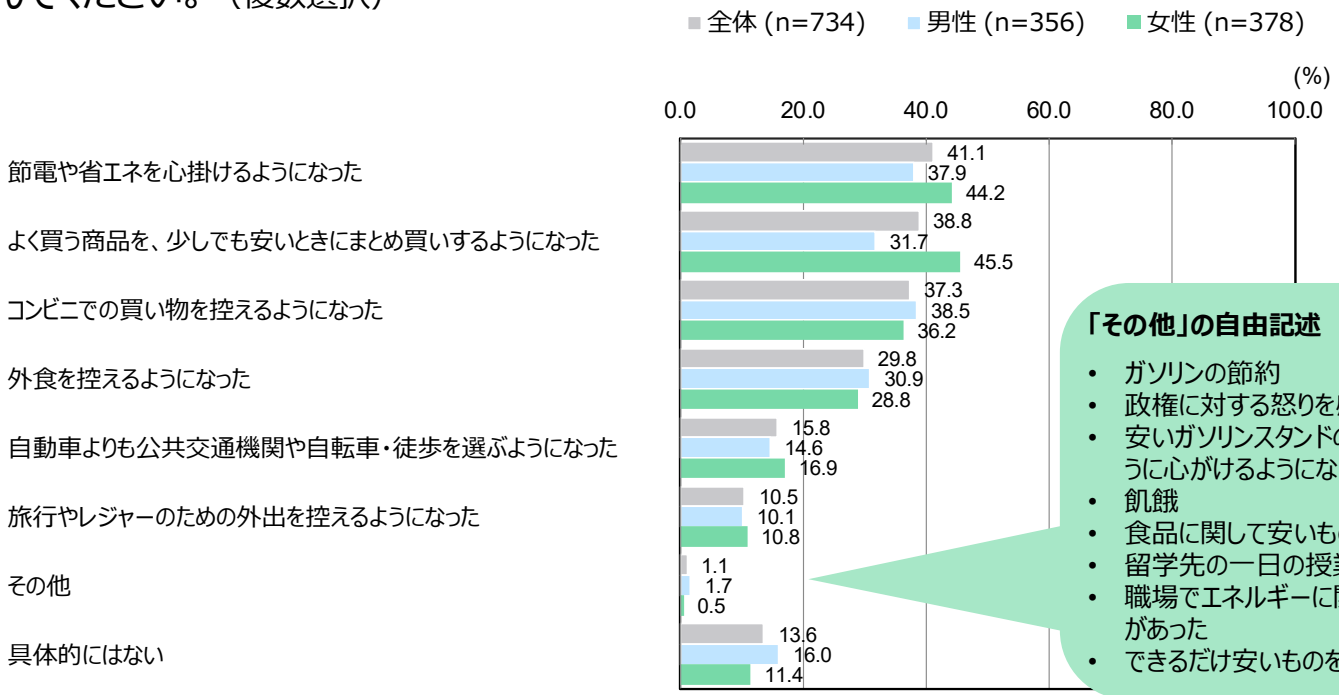
質問1：あなたは、最近の電気やガス、ガソリンなどのエネルギー価格の値上がりがあなたの生活に影響していると感じますか。（単一回答）



エネルギー価格の値上がりによる影響

男性では「コンビニでの買い物を控えるようになった」が1位。女性では「よく買う商品を、少しでも安いときにまとめ買いするようになった」が1位で、男性との差は13.8ptとなった。
男女ともに、2位は「節電や省エネを心掛けるようになった」であった。

質問2：エネルギー価格の値上がりによって、あなたの生活にどのような影響がありましたか。あてはまるものを全て選んでください。（複数選択）



「その他」の自由記述

- ガソリンの節約
- 政権に対する怒りを感じた
- 安いガソリンスタンドのみでガソリンを入れるように心がけるようになった
- 飢餓
- 食品に関して安いものしか買わなくなった
- 留学先の一日の授業数が変わった
- 職場でエネルギーに関する節約の呼びかけがあった
- できるだけ安いものを買おうって思う

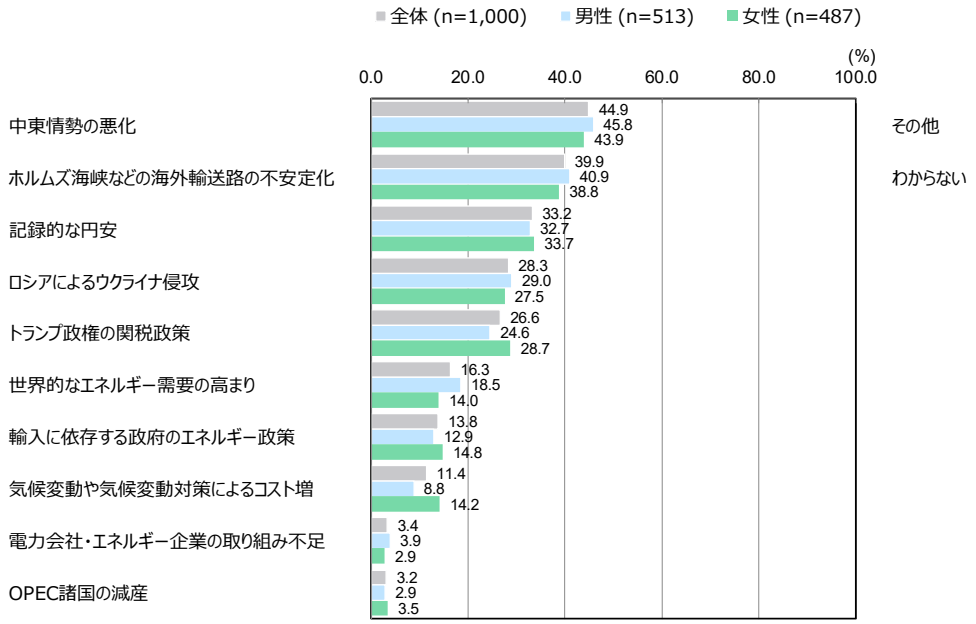
※ 「その他」「具体的にはない」を除き、全体の降順で掲載

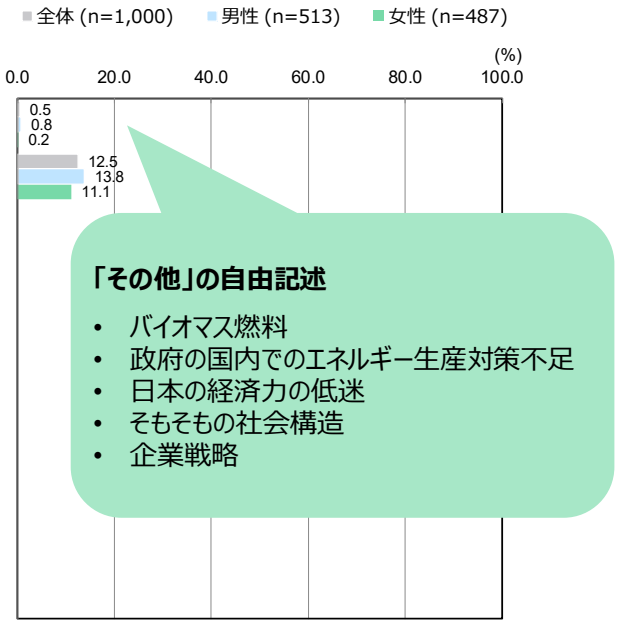
日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

エネルギー価格高騰の原因

エネルギー価格高騰の主な要因だと思うものは、男女ともに「中東情勢の悪化」が1位で、「ホルムズ海峡などの海外輸送路の不安定化」、「記録的な円安」が続く。

質問3：あなたは、現在の日本のエネルギー価格の高騰について、主に何が原因だと思いますか。3つまで選んでください。（3つまで複数選択）





「その他」の自由記述

- バイオマス燃料
- 政府の国内でのエネルギー生産対策不足
- 日本の経済力の低迷
- そもそもの社会構造
- 企業戦略

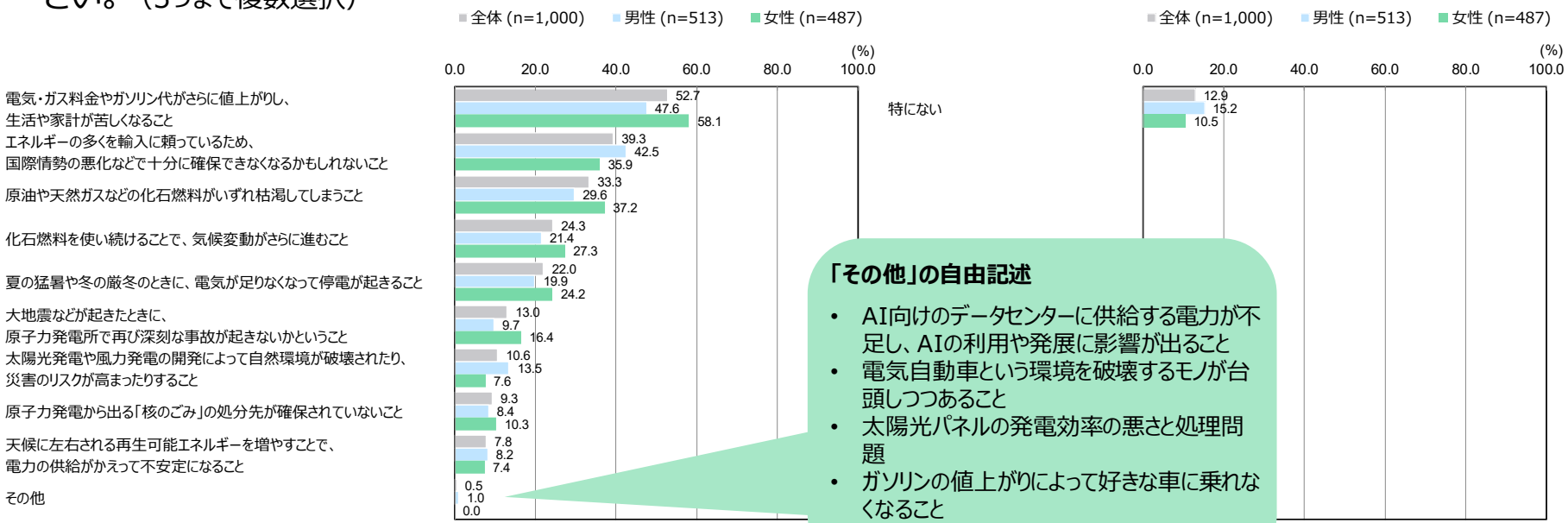
※ 「その他」「わからない」を除き、全体の降順で掲載

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

エネルギーの価格や供給に関する不安

男性では、「電気・ガス料金やガソリン代がさらに値上がりし、生活や家計が苦しくなること」、「エネルギーの多くを輸入に頼っているため、国際情勢の悪化などで十分に確保できなくなるかもしれないこと」が40%を超える。
女性では、「電気・ガス料金やガソリン代がさらに値上がりし、生活や家計が苦しくなること」が60%弱と突出して多く、「原油や天然ガスなどの化石燃料がいずれ枯渇してしまうこと」が続く。

質問4：あなたは、エネルギーの価格や供給に関して、不安に感じることはありますか。３つまで選んでください。（3つまで複数選択）



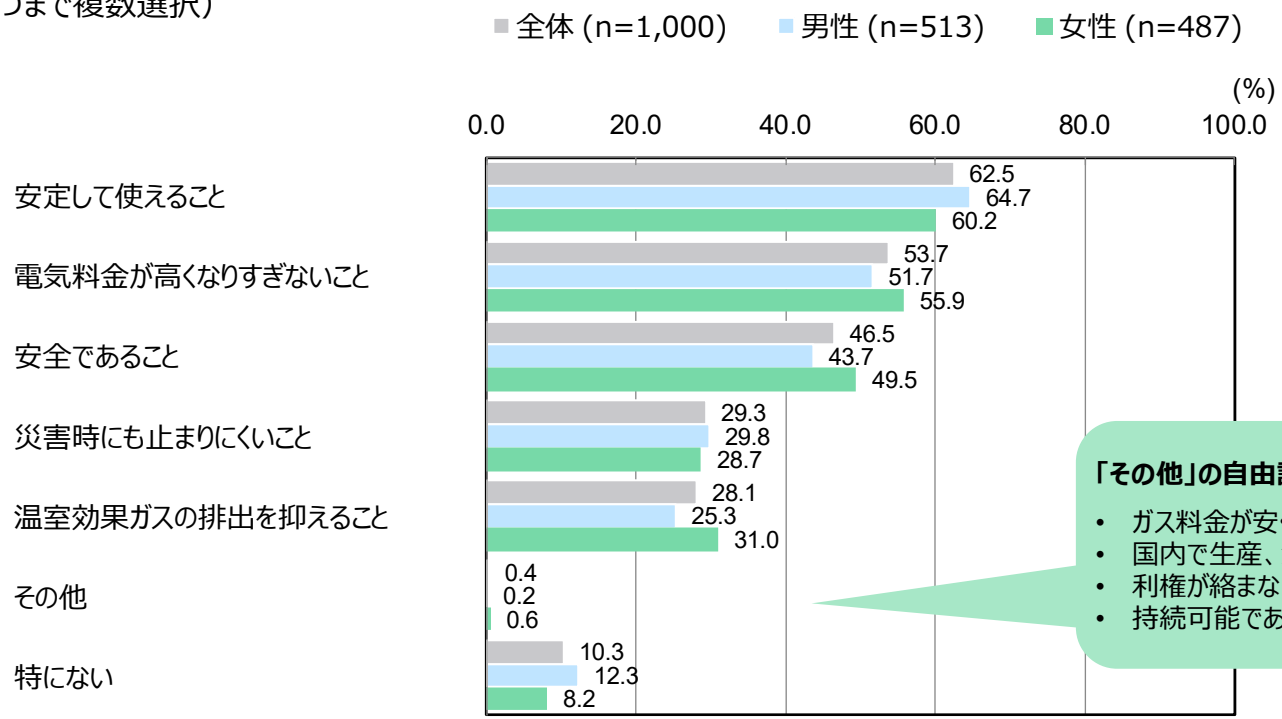
※ 「その他」「特にない」を除き、全体の降順で掲載

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日本のエネルギーのあり方で重視すること

男女ともに、「安定して使えること」が1位で、「電気料金が高くなりすぎないこと」、「安全であること」が続く。
「安全であること」、「温室効果ガスの排出を抑えること」は、男性よりも女性の方が重視すると答えた割合が大きい。

質問5：日本のエネルギーのあり方を考えるとき、あなたが特に重視することは何ですか。３つまで選んでください。（3つまで複数選択）



「その他」の自由記述

- ガス料金が安くなること
- 国内で生産、消費できること
- 利権が絡まないこと
- 持続可能であること

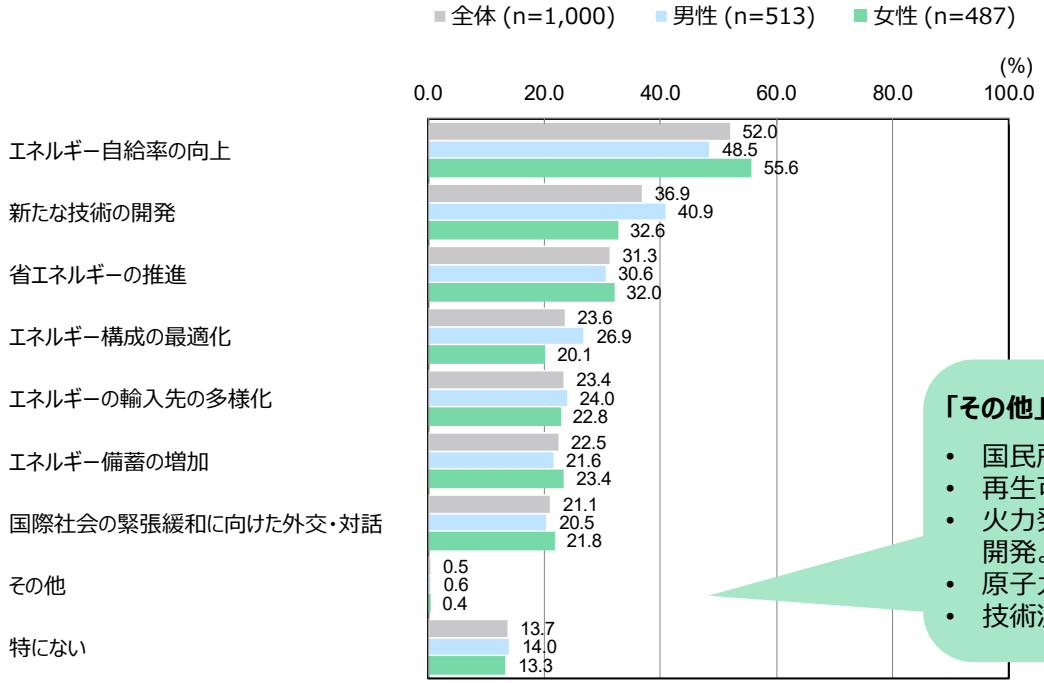
※「その他」「特にない」を除き、全体の降順で掲載

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

日本が力を入れるべき取り組み

男女ともに、「エネルギー自給率の向上」が最も多く、特に女性では突出している。
2位以下は、「新たな技術の開発」、「省エネルギーの推進」が続く。

質問6：あなたは、前問で選んだ「重視すること」を実現するために、日本はどのような取り組みに力を入れるべきだと考えますか。３つまで選んでください。（3つまで複数選択）



「その他」の自由記述

- 国民所得があがること
- 再生可能エネルギーの促進
- 火力発電所の停止、および水素エンジンの開発。
- 原子力発電の利用再開
- 技術流出の防止

※ 「その他」「特にない」を除き、全体の降順で掲載

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

提示文章

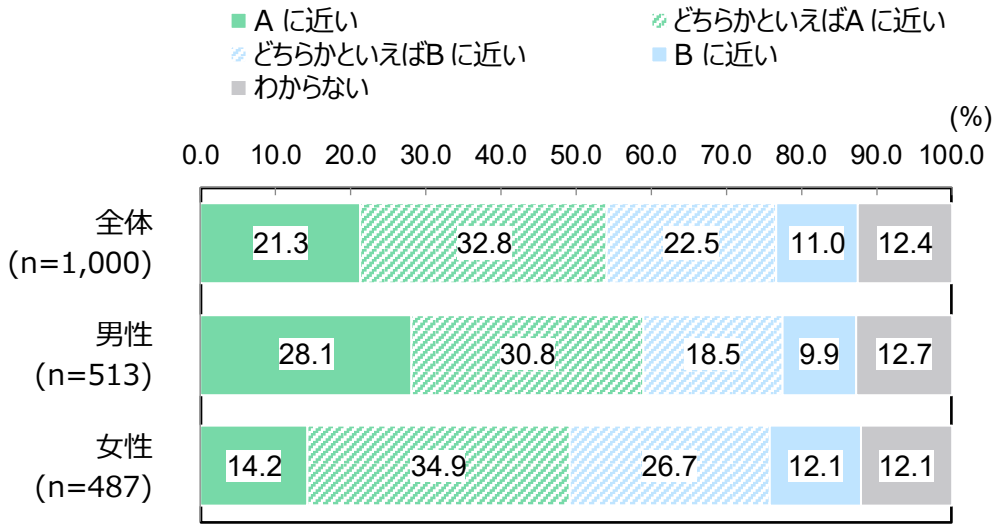
現在日本では、電力の約65%を石炭・石油・液化天然ガスなど化石燃料を使った火力発電で補っています。
火力発電は、天候に左右されず、必要な時に必要な量を安定して作ることができる一方で、温室効果ガスの排出や、化石燃料を輸入に依存している現状から価格や供給が不安定になる懸念があります。

火力発電に関する考え

全体の50%強が、「多少温室効果ガスを排出するとしても、安定して発電できる火力発電を維持すべきだ」に考えが近い（※）と回答。男女別では、男性が60%弱、女性が約50%と、男性の方が火力発電に対して肯定的な回答が多い。

※ 「Aに近い」、「どちらかといえばAに近い」の合計

質問7：あなたの考えは、AとBのどちらに近いですか。（単一回答）
A：多少温室効果ガスを排出するとしても、安定して発電できる火力発電を維持すべきだ
B：多少供給が不安定になっても、温室効果ガスを排出する火力発電は減らすべきだ



提示文章

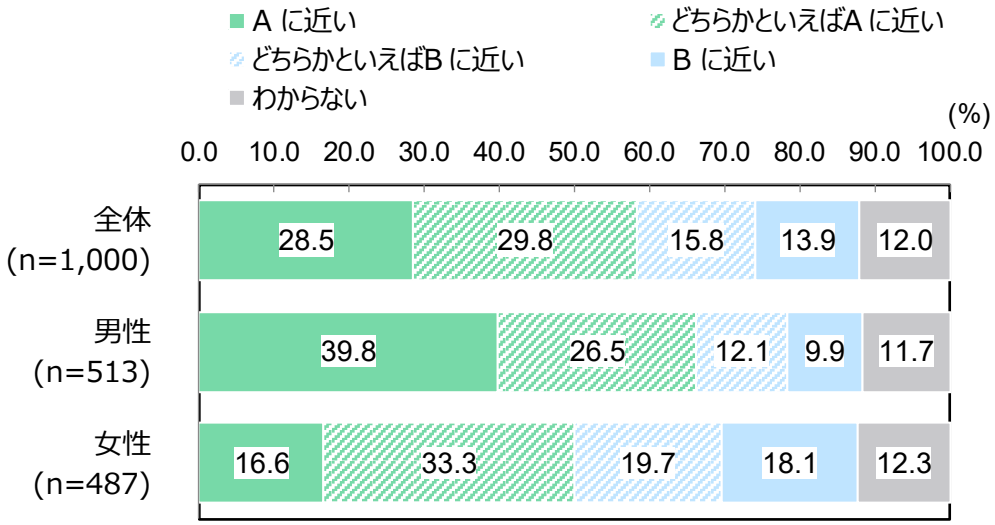
福島第一原発の事故を踏まえ、原子力発電所の再稼働には厳しい安全基準が課されています。安全対策に多額の費用がかかりますが、再稼働が進めば電気料金が安くなることが期待されるほか、温室効果ガスを排出せずに電力を得ることができます。
また、より安全な仕組みを取り入れた新しい原子炉の開発も進められています。

原子力発電に関する考え

全体の60%弱が、「安全基準を満たした原子力発電所の再稼働や建て替えを進めるべきだ」に考えが近い（※）と回答。男女別では、男性が70%弱、女性が約50%と、男性の方が原子力発電に対して肯定的な回答が多い。

※ 「Aに近い」、「どちらかといえばAに近い」の合計

質問8：あなたの考えは、AとBのどちらに近いですか。（単一回答）
A：安全基準を満たした原子力発電所の再稼働や建て替えを進めるべきだ
B：原子力発電には事故のリスクや廃棄物の問題があるため、頼るべきではない



提示文章

日本では、安全で安定的かつ環境にも配慮したエネルギー確保に向けて、以下のような新たな技術の開発・導入が進められています。

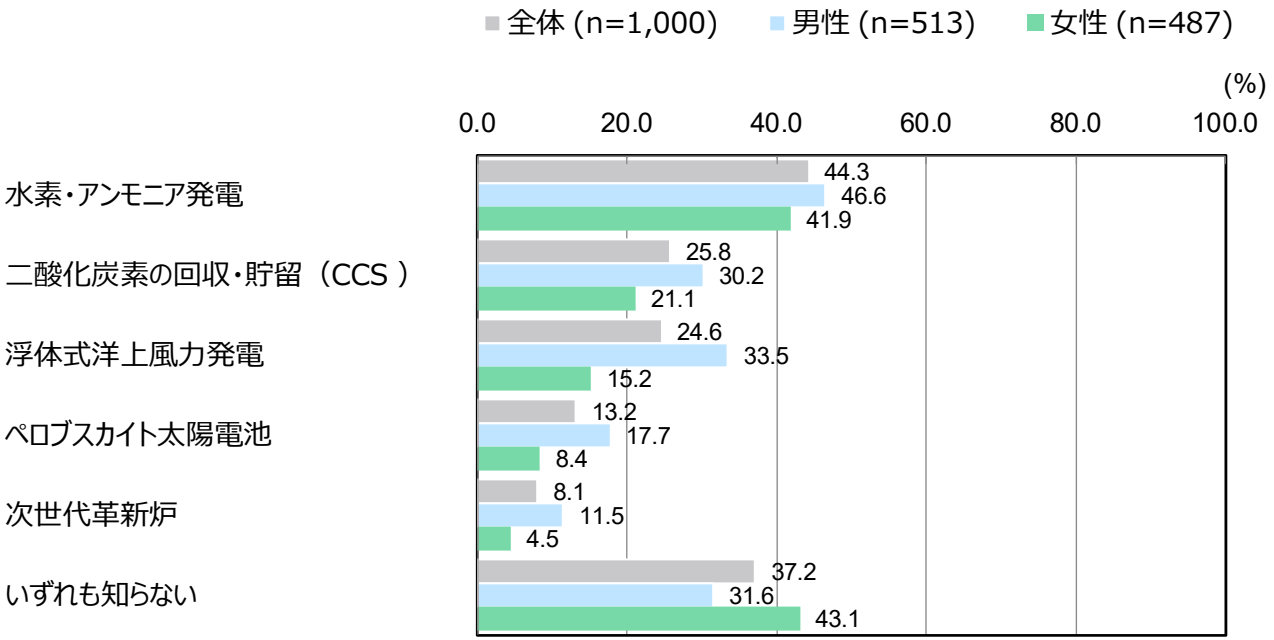
次世代革新炉	小型モジュール炉など、さらに安全性を高めた新型の原発
水素・アンモニア発電	燃やしても二酸化炭素を出さない水素やアンモニアを、火力発電の燃料として活用する技術
二酸化炭素の回収・貯留（CCS）	工場や発電所から発生した二酸化炭素を回収し、地中に貯留する技術
浮体式洋上風力発電	海底が急峻な日本の海域でも導入できる、発電設備を海上に浮かべる風力発電
ペロブスカイト太陽電池	軽くて曲げることができ、これまで設置が難しかった建物の壁面や耐荷重の低い屋根などにも設置可能な次世代の太陽電池

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

新しい技術の認知

男女ともに、「水素・アンモニア発電」が最も知られている。男性では「浮体式洋上風力発電」、「二酸化炭素の回収・貯留（CCS）」の順に、女性では「二酸化炭素の回収・貯留（CCS）」、「浮体式洋上風力発電」の順に続く。
いずれの技術も、女性よりも男性のほうが認知度が高い。

質問9：あなたは、以下の新しい技術を知っていましたか。知っていたものを全て選んでください。（複数選択）



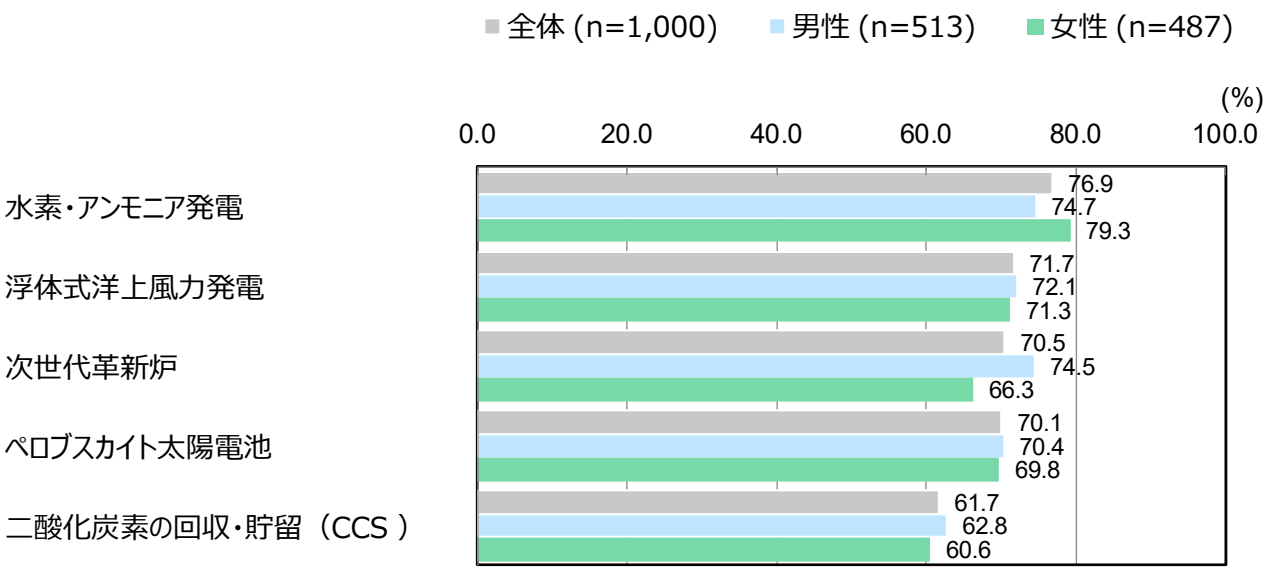
※「いずれも知らない」を除き、全体の降順で掲載

新しい技術への期待

いずれの技術についても、全体の60%以上が「期待する」（※）と回答。
男女別では、「次世代革新炉」について、女性よりも男性の方が期待すると回答した割合が大きく、男女差が見られた。

※ 「期待する」、「どちらかといえば期待する」と回答した人の割合。

質問10：あなたは、以下の新しい技術についてどう思いますか。（単一回答）

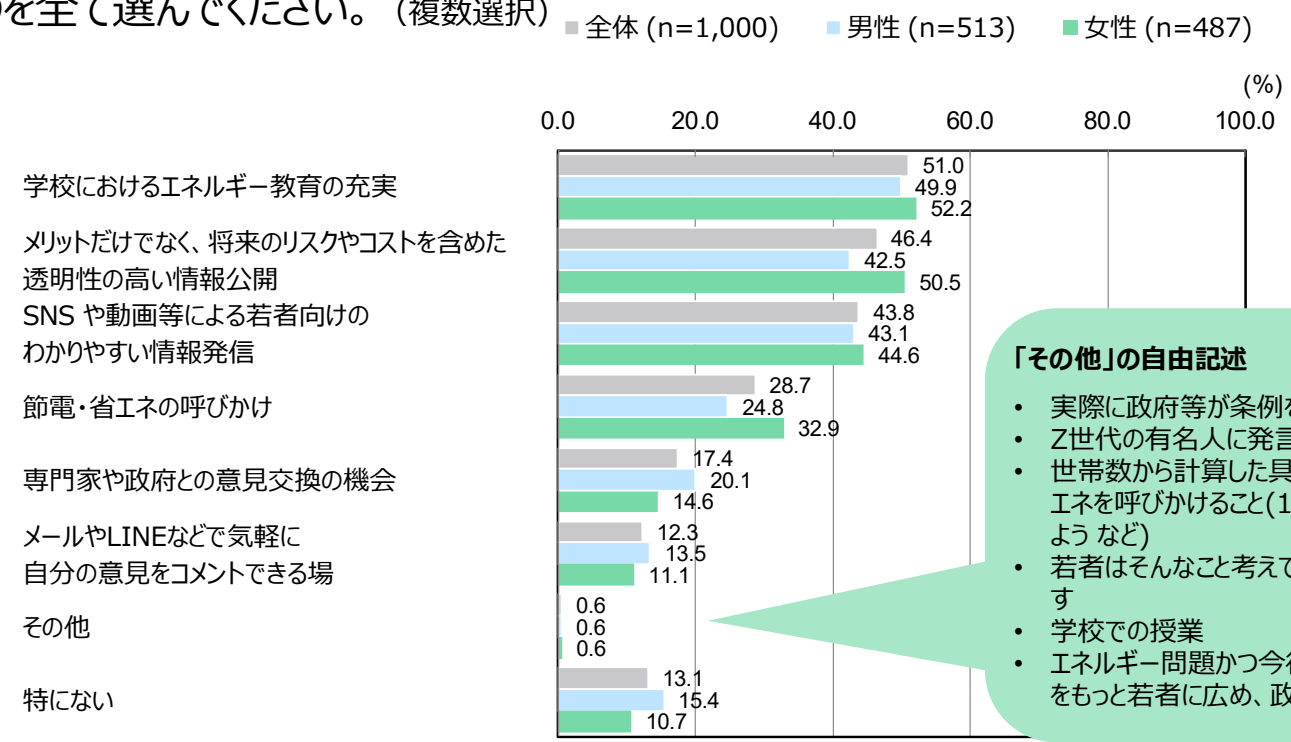


※ 全体の降順で掲載

若者の関心を高めるための取り組み

男女ともに、「学校におけるエネルギー教育の充実」が最も多い。
女性は僅差で「メリットだけでなく、将来のリスクやコストを含めた透明性の高い情報公開」が続く。

質問11：エネルギー問題への若者の関心を高めるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。（複数選択）



「その他」の自由記述

- 実際に政府等が条例を出さないと難しいと思う
- Z世代の有名人に発言させる
- 世帯数から計算した具体的な数値をもって省エネを呼びかけること(1日でシャワー〇分に収めよう など)
- 若者はそんなこと考えてる暇がないので無理です
- 学校での授業
- エネルギー問題かつ今後のエネルギーの重要性をもっと若者に広め、政治がそこに投資すべき

※ 「その他」「特にない」を除き、全体の降順で掲載